



# 新毎日

2004年(平成16年) 12月6日 月曜日

## 総合 ニュースの焦点



米国の人権侵害を  
告発した映像作家

リナ・ホシノさん

ラム教徒への拘束、迫害が始まった。

1週間後、日系人街でイスラム教徒と日系人の

「80歳過ぎのお年よりがつえをつけて参加し収容所体験を覗き、イスラム教徒も標的になるのを覚悟で公の場に現れた。その勇気と声を伝えた」

### 「敵国」と「自国」の間で 苦しむ人々を知って

9・11テロの時、サンフランシスコのカフェで

コーヒを飲んでいた。

テレビで事件を見て「す

ごく恐ろしいことになる

予感がした」。すぐイス

合同集会が開かれた。第

二次大戦中、人種偏見か

ら約12万人が強制収容さ

れた歴史を持つ日系人が

作品「Caught Between」は集会や

日系人の回想、イスラム

人とイスラム教徒が共に

訪れ、差別の恐ろしさを



68年、日本人の父と台湾人の母の下、米ニュージャージー州生まれ。米、日、仏などで暮らし、映像作家に。作品紹介は[www.root-b.org](http://www.root-b.org)に。

会を計画し、来日。作品を見たパキスタンなどから来た労働者が「自分たちもテロ後、日本でこわごとと過ごしている」と聞かされた。

「在日コリアンからも『拉致事件の後と同じだ』と言われた。アメリカだけでなく、日本も既に多民族社会だし、危機の時に、少数民族が自らの人権を守らなければならぬのは同じ」と訴える。

文・扇沢秀明

写真・小座野容齊